

永

永

月

月

八

八

興

興

申

申

四

四

元

元

辰

辰

辛

辛

年

年

朔

朔

酉

酉

六

六

十

十

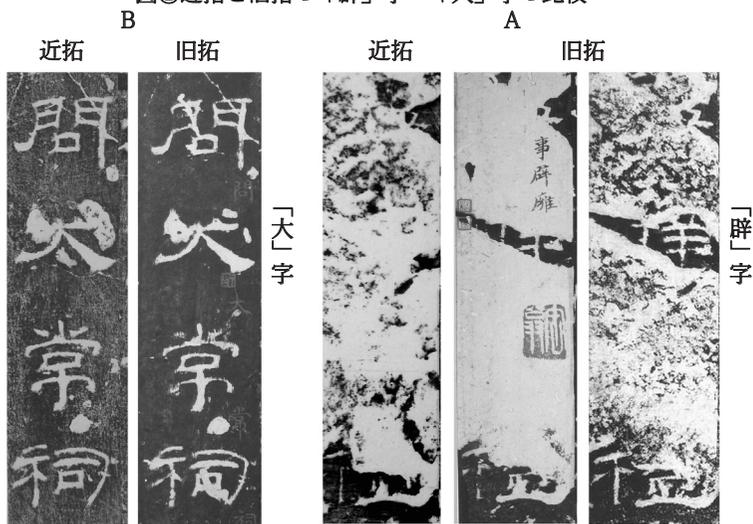
魯

魯

「落ち穂拾い記」⑦⑤

『乙瑛碑』

図①近拓と旧拓の「辟」字・「大」字の比較



図②呉昌碩の自用印七種
「呉昌石」「呉俊之印」「雙缶」「缶翁」「破荷」「安吉呉俊章」「十歌園丁五湖印」



図③帖中の呉昌碩の書と思われる朱筆の釈文集字・やや拡大



古書店の散策は、学生時代から定期的に続けている。いつの頃からか北京や上海などの古書店も年に数回ほど続けてきたが、最近では止めている。以前上海の古書店で、碑法帖資料などが品薄になり、客もいない閑散としていた店内の書棚をぼんやり眺めていたときに、下の書棚の隅に表紙もない、ぼろぼろの拓本らしきものを簡単にビニール紐で無造作に縛ったのが目についた。手にして驚いた、やや古い感じの『乙瑛碑』であった。値段も非常に安かったので、丁寧に確認もせず求め、後で確かめると、折り帖は、表紙もなくばらばらであり、各所に虫損が見られたが、碑文は揃っていた。旧拓の根拠とされる3行目の「辟」字がわずかに残り、その十数字前の「大常」の「大」字が「太」に直されていない(図①)。また購入する時に目についた鑑蔵印を丁寧にみると数顆捺されており、それが、清末民国期に篆刻、書画を善くした名家・呉昌碩の自用印であり、真偽はわから

ないので仲良くしていた当地の篆刻家に見てもらった(図②)。疑問はないとのこと、非常に驚いた。『乙瑛碑』は、曲阜の孔子廟に建てられた漢時代の「礼器碑」「史晨碑」「孔宙碑」と並ぶ隷書の名碑である。その書風は、先に挙げた名碑とも異なり、優美で力強い八分隷書である。近拓本は、早くから手にしていたが、旧拓は大変に得難いものと感じていた。北京の友人に重装してもらい、折り帖の表紙と書帙は、自分で制作し愛蔵している。しかし、この旧拓本は拓調が重く、字画が少し見づらくところがあり、虫損もすこしあり、字画がわずかに欠けている文字がある。また巻頭から途中までであるが、本文の文字の右下に朱筆による1センチほどの大きさの釈字が書かれている(図③)。見事な細字であり、家蔵の呉昌碩の蔵本である張遷碑の題簽の書風と通じる所があり、この朱筆の小楷は、旧蔵者・呉昌碩の壮年の筆と考えている。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

第77回毎日書道展 主要人事決定

2月5日(木)、如水会館にて第77回毎日書道展の運営委員会が開催されました。

毎日展本院関係の役員

・運営委員(1月号に掲載)

・会員賞選考委員

理事 下谷洋子(か)

その他 小竹石雲(近)

半田藤扇(漢)

大石仙岳(前)

・審査部

副部長 千葉蒼玄(前)

・陳列部

副部長 山口仙草(前)

・当番審査員

名越蒼竹(漢I) 大内煥軒(漢II)

松村くに子(かI) 小島孝子(かII)

飯沼恵鳳 大平邑峰 佐久間幸扇(近)

飯田春香・小林琴水(大)

北村白琉・千葉蒼玄・柳橋香仙(前)

・主要日程

4/9 事務局会議

5/11 出品受付

5/20 審査(刻字部を除く)

6/23 部によって審査は異なる

6/23 役員作品搬入

6/24 刻字部審査

6/27 入賞審査

6/27 会員賞選考会

6/28 文部科学大臣賞選考会

○東京展「国立新美術館」

前期展I期

7月8日(水)～7月13日(月)

前期展II期

7月15日(水)～7月20日(月)

後期展I期

7月22日(水)～7月27日(月)

後期展II期

7月29日(水)～8月2日(日)

「東京都美術館」

7月18日(土)～7月24日(金)

茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、

東京、神奈川、新潟、富山、石川、

福井、山梨、長野、静岡、沖縄の

各都県と海外

○四国展「愛媛県美術館」

8月19日(水)～8月23日(日)

徳島、香川、愛媛、高知の各県

○東海展「愛知県美術館ギャラリー」

8月25日(火)～8月30日(日)

愛知、岐阜、三重の各県

○中国展「広島県立美術館」

実行委員長 名越蒼竹

8月25日(火)～8月30日(日)

鳥取、島根、岡山、広島各県

○関西展「京都市京セラ美術館」

「みやこめっせ第2展示場」

8月26日(水)～8月30日(日)

京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、

滋賀の各府県

○東北仙台展「仙台メディアテーク」

9月11日(金)～9月16日(水)

宮城、岩手、青森の各県

○北海道展「札幌市民ギャラリー」

役員展天丸藤井セントラルスカイホール

9月23日(水)～9月27日(日)

北海道

○東北山形展「山形美術館」

10月28日(水)～11月1日(日)

山形、福島、秋田の各県

○九州展「大分県立美術館」

11月10日(火)～11月15日(日)

山口、福岡、佐賀、熊本、長崎、

大分、宮崎、鹿児島各県

第79回書道芸術院展開催

第79回書道芸術院展は、2月4日陳

列、5日開幕しました。陳列がほぼ終

了した4日には恒例の記者会見が行わ

れ、また評論家の眼として柳澤朱重

先生には作品の選考をしていただきま

した。7日は表彰式と「出品者の集い

」を行い、8日は春華賞・大賞・準大賞

受賞者による席上揮毫が行われました。

その後、昨年の秋季展に併催したア

トサロン毎日での前衛書展の出品者に

よる今回展の作品研究会が、午後には

一般・無鑑査の上位入賞者を中心に担

当審査員による作品解説がありました。

この日東京は雪景色となりましたが、

多くの方が早朝から会場に駆けつけて、

それぞれの行事もとどこおりなく行わ

れました。

11日の最終日には、これも恒例の第

1展示室での解説会となり、出席の理

事・監事から今回展の傾向や各部の特

徴、今後への課題などを話していただ

き、また大作の解説も行いました。

来年はいよいよ80回展を迎えます。

会員の皆様のご協力をお願いします。



理事長挨拶

第57回現代女流書展開催

同時開催現代女流書新進作家展

57回になる現代女流書展が、2月26

日から、日本橋高島屋S.C.本館8階

ホールにて開催されました。

本院から安藤華祥(漢)勝山初美・下

谷洋子(か)金木和子・木村笙園・白石

和楓(近)稲垣小燕・東福青室(大)太田

蓮紅・倉林紅瑤・平岡千香子・柳町祥香

(前)先生と、新進作家として昨年会員

賞に輝いた高原梨秀先生が出品されま

した。ジェンダレスの時代ではあり

ますが、女性らしい華やかな会場は一

際、賑わいを見せました。

初日に、作品鑑賞会とランチ会を行

いました。

(作品は7～11ページに掲載)

篆書② 召尊銘

殷の末期とそれに続く周王朝では、王室や国家の祭祀儀礼に用いるために様々な青銅器が作製された。それらの青銅器に作製の由来等を鑄込んだ銘文を金文と呼ぶ。金とは金属のことで、青銅を指す。

西周時代初期の「召尊」は、酒器。河南省洛陽で出土し、上海博物館に現存する。内側に、白懋父から召が神事に用いる白馬を炎の地で賜った栄誉を称える内容の文章が陰文(凹文)で鑄込まれている。銘文の書風は謹厳で典雅、複雑で変化に富んだ字形で、文字に大小の差異がある。曲線を多用した滑らかな線は、水平、垂直が原則。左右対称で、等分割の字形は整齐。肥筆部分には、太細があり、明らかに筆で書かれた文字が鑄込まれたと思われる表情がある。

召尊をはじめとする殷周の金文は、表情に富み、躍動感に溢れ、生命力が漲り、殷周期の識者の優れた感性が窺え、その造形は魅力的。

※YouTube「筆のサロン」に臨書と做書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。



筆のサロン QRコード

①召尊銘 拓本



①召尊 器影



②召尊銘 拓本部分「白懋父賜」



③召尊銘臨書

「白懋父賜」



④召尊銘 点画



⑤召尊銘做書

「天馬行空」



基礎基本講座

前回、ペンの選び方のお話を少しさせていただきました。今回ももう少し、ペンのお話をさせていただきます。ペン先の素材はステンレスと金が主流で、ステンレスだとリーズナブル、カリカリとした硬めの書き味です。金のペンは、しなやかな書き心地で、前回お話をしたように、弾力により微妙な庄の変化が表現しやすいと思います。

私は、何年も前に日本製の「極細」のペンを購入しました。試し書きをした時「細字」のペンも書きやすかったため、どちらにするか悩んでいたところ、「書くに従ってだんだんと自分の癖もつき、書き易くなるのは極細ではないかしら？」との先輩の方のアドバイスでそちらに決めたのです。初めて筆を買う時のようなドキドキ感を味わいましたが、今では極細のペンがしっくりとなじむようになりました。ちなみに、外国製のものは横書きの文字を書くのに適しているようです。



こちらは、五年ぐらい前に購入した極細のペンで書いたものです。太字・細字のペンで書いた文字もそれぞれに違う美しさがあると思います。書道でまず、筆・紙・墨・硯にこだわるように、ペンもぜひこだわってお気に入りの1本に出会っていただきたいと思います。

〈姿勢と執筆〉

つつい、肩に力が入りますが、力まず、肩の力を抜いて楽しい気持ちでペンを執りましょう。大好きな音楽を聴きながら書くのもいいです。机との距離も注意しましょう。

執筆は、指に力を入れすぎず、軽やかにペンが動くように持ちましょう。紙面との角度が45度から60度ぐらいになると書きやすいと思います。皆さん、下敷きは何をお使いでしょうか。学童用のゴム下敷きもありますが、わら半紙を数枚重ね、その柔らかさを生かして書かれるのが良いと思います。ペンの弾力をわら半紙の柔らかさが受け止めてくれます。是非、お試しください。

令和の群像 (2026)



第76回毎日書道展

佐久間 玉流 書



佐久間 玉流 (宮城)

「日々の生活の中から書
作品を創る」

令和7年10月に古希を迎える時に、原稿依頼をいただき、改めて自分の書活動を追憶するとてもいい機会となりました。

この作品は、第76回毎日書道展の作品です。普段の作品制作は、題材を決め、漢字の文字を新書源から全て抽出し、私なりにデフォルメして配置し、全体の構成を調整しています。羊毛長鋒の筆での、開閉、遅速、文字の変化と構成、タッチなどを踏まえ、常に、明るい作品となるよう、心掛けています。

書の出会いは、8歳の時、字を綺麗に書きたいという理由で、故・矢内香苑先生の元に通い始めたことでした。22歳の時、近所から声がかかり、師範を取得後、「澄書道塾」を開塾しました。さらに、法政大学通信教育学部で、7年の歳月をかけ、国語と書道の教員資格を取得しました。書道塾での指導、母の介護、父の事業事務、家事、育児などで多忙を極める中、それでも書の道を休まず歩き続け、結婚を機に、同市内の白書会の大槻秀碧先生の門下生となりました。秀碧先生には、徹底的に楷書の筆遣いと、臨書とは何たるかを叩き込まれ、お陰で院賞を受賞、その後の入賞の数々につながったと思っています。また、白書会の指導方法は、参考手本を書かずに、門下生一人一人の個性を尊重した作品作りを援助するやり方です。それは今で

も、私の指導方針の基礎となっています。

私には、3人の子供がおり、長女は、今年度の院秋季展で俊英賞を受賞した佐久間玉瑛です。2番目は長男、少し年が離れて、3番目は次女です。次女を出産した平成5年、院展で初の大作展の募集があり、出品を決めました。それから、夜に子供たちを寝かしつけた後、創作の場でもある塾へ車で移動し、作品作りをしました。作品を仕上げたその晩は、真夜中に、「赤ちゃんが泣いているよ」と、家から電話があり、家に戻って再度寝かしつけた後、また塾に戻って書き続けました。その努力の甲斐あってか、入選をいただきました。また、次女は幼い頃、後追いが激しく、指導のため書道教室へ行く時、私は、家の裏口からこっそり出なければならぬほどでした。その時の創作のテーマは、おかあさんと、サトウハチローの「かわいいかくれんぼ」で、毎日展初入選初入賞から、連続で入賞し、会員に昇格した。

これまで、怒涛の日々を送ってきたと感じていますが、書道芸術院や宮城野書人会の先生方、師・大槻秀碧先生、書友、塾生、そして、家族のお陰で、私は導かれるように書活動を続けていると感じています。塾生らも、皆様のお陰で、院展で白雪紅梅賞、菊花賞、毎日展では佳作など、多くの入賞を果たし、彼らが育つ姿を見るのが、とても嬉しんです。現在は、3世帯同居で、家族の一人として祖母業をしながら、自己表現の場としての書活動に動いています。まだまだ発展途上の私ですが、これからも書と共存し、地元や地域に貢献したいと考えています。

書道芸術院

令和の群像 (2026)



浅野彩紅 (宮城)

「とも」

手習いの習字を始めてから、多くの月日が流れた。小学校で辞め、中学校で辞め、高校の芸術の授業で師である太田蓮紅先生と出会った。お稽古事はもうしないだろうと思っていたが、社会人になり、ふとしまっかけで無心に何かに没頭したくなり、自宅の近くにお住まいの先生のお宅を訪ねたのが始まりである。それから気づけば40年近くが過ぎた。

嫌いだった習字をどうしてこんなに長く続けられたのだろう。高校の授業では、折に触れ稚拙ではあるが、作品が一つ出来上がるたびにうれしかった。お稽古に通うよ

うになってからも、自宅に飾れる作品が数年に一つずつ増えていく楽しみがあった。研修では紙すきを体験し、美術館巡りでは北京や台北の故宮博物館まで見学に出かけた。また、憧れだった敦煌を訪れることもできた。その時に感じた乾いた大地の香りと、口にした干しブドウのやさしい甘さを今も忘れることができない。乾いた空気の中で味わったその甘みは、あの大地が育んだ生命の記憶そのもののように感じられ、今も私の中で感覚として生きている。

乾きと潤い、静と動、あの体験が今の書につながっている。書が続けていなければできなかつた体験である。それを共有できた先生をはじめ書友の仲間と過ごした時間は、作品を作るだけでなく、互いの感性に触れ合う大切なひとときでもあった。そし

て、筆で書くことがこんなにも好きな自分に驚いている。私にとって「書」は大切なコミュニケーションツールである。書を通じて人とつながり、書くことで自分自身が感じたことを表現する。何もわからず前衛書の道に入ったが、それに疑問はなかった。ただ、前衛書は「わからない」。それでも、いつもわかりたいと思いつながら書いている。漢字やかなの古典臨書に何かを求めたり、前衛書から離れ詩文書から構成や余白を考えたたりすることもある。求めた先に何かかひっかかることがあり、その感触を手がかりに新たな追求を始める。作品制作はその繰り返しである。

掲載の作品は、第76回毎日書道展出品作である。締切が迫った5月にニュースで見たと奥入瀬溪流を題材にした。清らかでありながら、迸る生命力に満ちた流れを表現したいと思い制作した。20数年、淡墨で作品を制作しているが、なかなか思うような墨色には出会えない。それでも、墨色の美しさと自在に変化していく滲みに魅せられ、また挑戦している。

今こうして振り返り文章にしてみると、楽しかったことしか思い浮かばないが、苦しさや辛さがあったり、喜びがより深くなる。これからも、ともに同じ目標を持つ仲間と語り合い、互いの感性を響き合わせながら、感情豊かで息づかいが伝わる芸術作品を創り出すよう努力していきたい。



第76回毎日書道展「清流」

浅野彩紅書

新 鋭 礼 讃

漢字部 審査会員

高岡 秀汀 (広島県)



所属 水菱会
師名 竹本龍汀

参加している書展
毎日書道展



「無題」

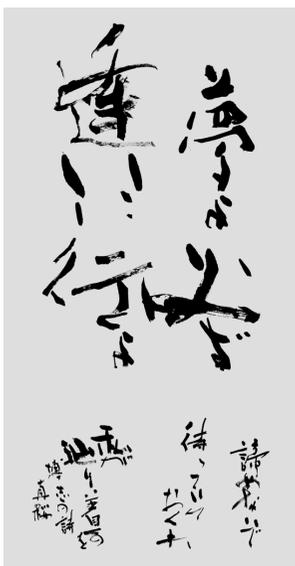
學者要收拾精神併歸一路

現代詩文書部 審査会員候補 芳賀 真桜 (宮城県)



所属 苑書会・伊呂波会
師名 坂本素雪
武山櫻子

参加している書展
毎日書道展
みやぎを魅せる書展



「夢よ必ず逢いに行くよ」

夢よ必ず逢いに行くよ 諦めないで待っていておくれ私が辿り着くの

作品自評

作品制作で字句を選ぶ際、つい自分がその時に書きたい線が出せる文字を含むものを第一に見て、その後季節が大丈夫か、意味は大丈夫かを考える。今回の作品は「神」と「歸」の長い縦線が書きたくて選んだのだが、書き終わった後に1文字見落としていたことに気づき構成を変えることになり、思いのほか苦戦した。書活動における課題

偏りなく古典臨書、作品鑑賞をしようと思掛けるが、気がつけば最終的には自分の好みのものでばかりになっている。そのため作品制作する際に変えているつもりでもあまり変化がなく進歩がない。今はより意識的に臨書、作品の鑑賞・研

作品自評

今回の作品では夢に向かって諦めずに進む強い意志を表現したいと思い、一面一面の線の勢いや、筆の流れを意識して取り組みました。

しかし、自分の気持ちをどのように作品に込めるか、そして自分の強い想いを見せ場であるメインの線に反映させることができるかで苦戦しました。

それでも書作品から自分の想いを見る方を感じ取ってもらえるように心がけながら書き上げました。加えて、作品全体のバランスを整えながらメイン、小文字の構成を考えました。ただ、見せ場であるメインの1行目と2行目の漢字とひらがなの配置が似たような位置になってしまったのが、反省点です。

究を幅広く、苦手なものや理解し難いものを積極的に勉強し作品制作に生かせるようにしていきたい。
今、伝えたいこと

書道教室の生徒の方や少し書道に興味のある方から、作品展やテレビ等で目にする作品について何が良いのか、どう鑑賞すれば良いかわからないが、有名な方の作品もしくは価格が高いから良い作品なのだろうとよく耳にする。確かに理解し難い(できない)作品はあるが、あまりにも書自体に対する自身の基準というか感性が無いように思える。絵画と同じように書の鑑賞を楽しめる人をどうすれば増やせるのだろうかと思夜、考えている。

書活動における課題

高校時代に近代詩を書き始め約9年が経ちました。様々な展覧会に出品し自分の書きたい作品が思い浮かぶ反面、自身自身の技術の未熟さにもどかしさを感じています。書を通して何かを伝えたいという気持ちを忘れずに、今後も書と自分に向き合いながら挑戦を続けていきたい。今、伝えたいこと

小学3年から書の世界に触れ、毎週のお稽古が楽しく自分の可能性を信じて師・武山櫻子先生、伊呂波会では坂本素雪先生のご指導のもとで続けられています。また母とともに二人三脚で続けてきました。母をはじめ、周りからの応援があったて今の私が存在しています。周りの環境に感謝、私の向上心を忘れずに書と向き合っていきます。努力は裏切らない、必ず身につく。それを信じ今日も筆をとる。

第57回

現代女流書展

同時開催＝現代女流書新進作家展

- ・2026年2月26日(木)～3月2日(月)
- ・日本橋高島屋S.C.本館8階ホール

高き家に君とのぼれば春の国河とほじろし朝の鐘鳴る／何となく君に
待たるるこちして出でし花野の夕月夜かな／日のくれは君の恋しや
なつかしや息ふさがるるこちこそすれ

〈運営委員〉 下谷洋子



〈春の国〉 与謝野晶子

137×73cm

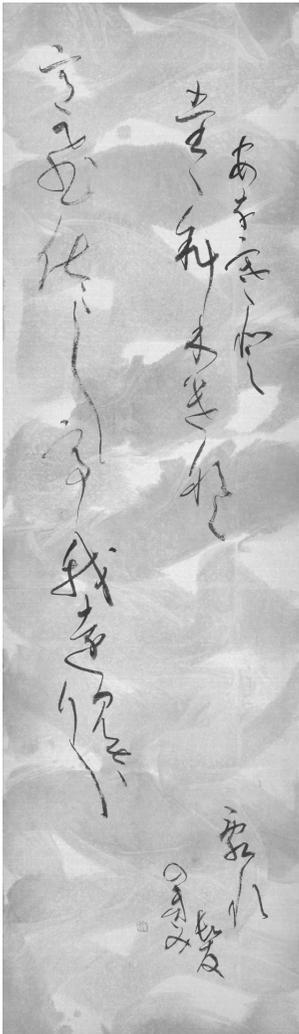
〈猶龍〉



安藤華祥

105×136cm

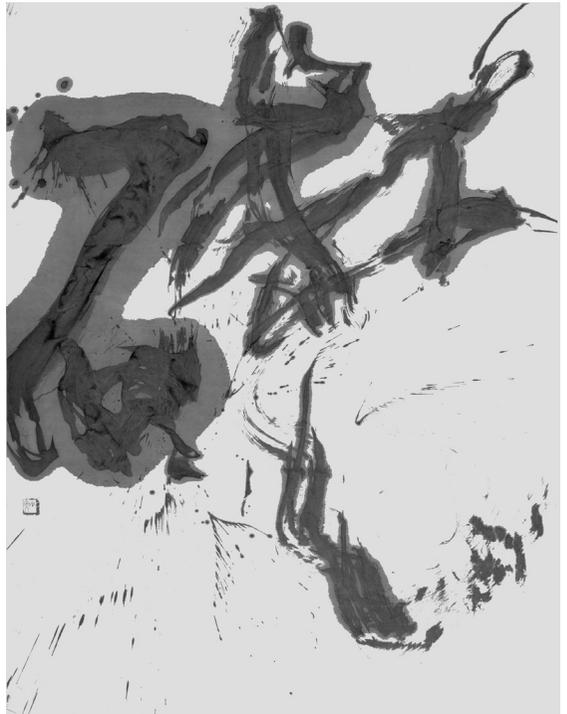
〈あな寒と〉与謝野鉄幹



勝山初美

182×52cm

〈礎〉



稻垣小燕

130×100cm

〈響〉

太田蓮紅



58×96cm

〈蠢〉

倉林紅瑤



176×86cm

〈俳句〉和田しずえ

木村笙園



170×70cm

〈深代響の句〉

金木和子



105×135cm

〈奔〉

東福青篁



135×98cm

〈漣童の句〉川畑漣童

白石和楓



174×71cm

〈冬尽〉

柳町祥香



106×136cm

〈Birth〉



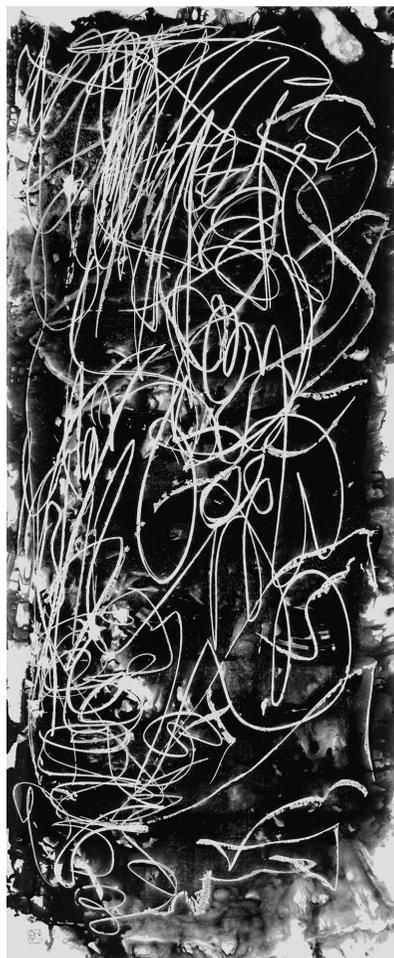
高原梨秀

183×61cm

新進作家展

〈オールマン・リバー〉

平岡千香子



173×71cm

蘇慈墓誌銘（隋 603年）③

〔解説〕「蘇慈墓誌銘」と同時代の「美人董氏墓誌銘」の字を右下に示した。今号の課題に出てくる字なので、その共通点・相違点をじっくりと比較されたい。
（編集部）



漢字研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

Ⅱ（A:大の部 毎行書合・合員サイズ以内、2×6・縦も可）
（B:小の部 半切以上半切以内、合員以内も可（A・B縦書可））
当該古典の左記掲載部分以外も可。



※掲載図版原寸

「美人董氏墓誌銘」→
(85%縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

堤封絶際。波瀾莫涖。天／經至極。人倫終始。優學／登朝。飛英擅美。鉤陳奕／奕。陞衛森森。戎章重綰。／侯服再廡。端儲率校。掌

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部 毎日展審査委員会・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部 半切以上、半切以内(縦横自由) へいすれも左記の掲載以外も可。V

曼殊院本古今集(伝藤原行成筆) ③

〈解説〉「曼殊院本」は、1字をしっかりと書いて長めの連綿線で次の字におおらかに移っていくというリズムを持つ。その1字も懐ろをゆったりと広く取っていることが多い(線で囲まれた空間の形を見ると観察が深まる)。また、同じ字の形を比べると、ほとんど変化がないと言っている。今月の図版でも「よ」「つ」「遍」「万」を見れば、それは明らかであろう。2首目の「の」は1首目の2つとは少し形が違うが、筆庄の掛け方は共通している。また、「は」の1画目を長く伸ばして2画目は高い位置から右に長く引くなど、この筆者の書き癖を見つけていくのも鑑賞のひとつの方法であろう。

墨継ぎは原則、歌の冒頭で行っている。そのため、後半は細い線が多くなるが、しなやかさを出すには含墨量の調整が必要になる。(編集部)

〈よみ〉

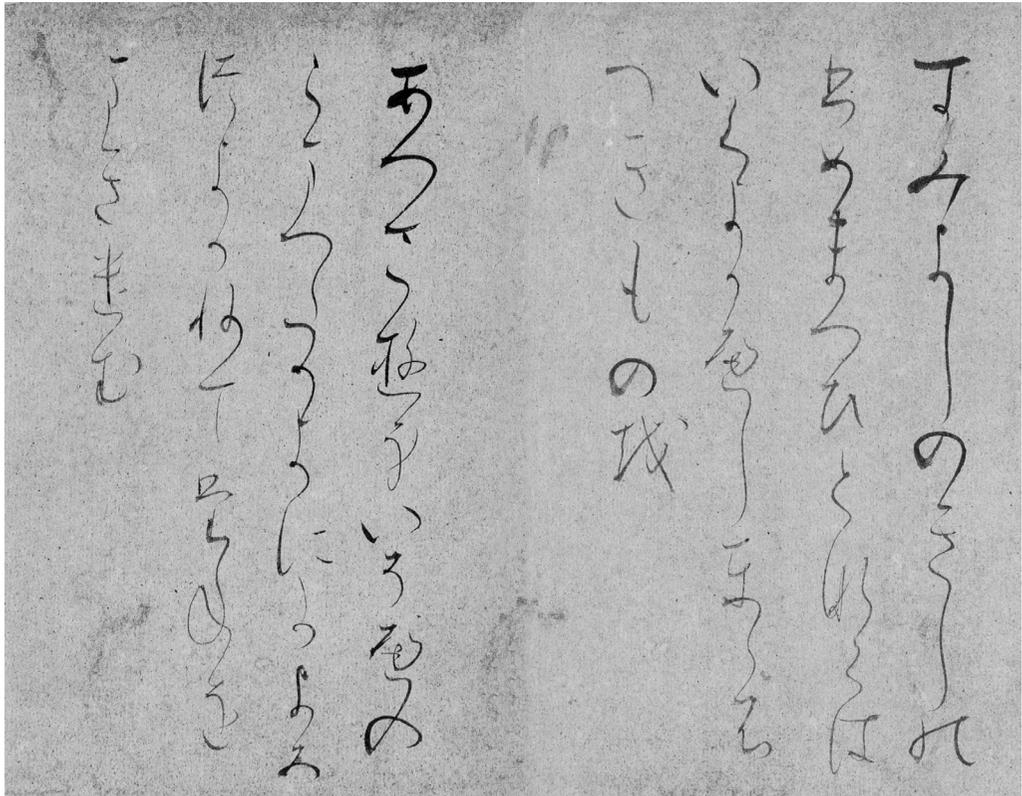
すみよしのきしの
ひめまつひとならば
いくよかへしとふ
べきものを
あづさゆみいそべの
こまつたがよにかよろ
づよかねてたねを
まきけむ

※落款を必ず入れる。署名、もしくは
○○臨(押印のみも可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書し
ましよう。

※53ページに原寸大の図版を掲載
しました。

◎半紙は縦長に使用します。



曼殊院蔵

※掲載図版75%縮小

漢字規定 初段以上 【4月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

千葉蒼玄 選書



草香沙暖

よみ (草香^{こう}ばしくして、沙^{すな}暖かし)

書体 自由

習い方解説 (3)

千葉蒼玄

草香沙暖 (白居易)

(草香^{こう}ばしくして、沙^{すな}暖かし)

草の香りが漂い、砂が暖かい。

漢詩には天候や自然を詠んだものが多く、その表現は華やかで趣深いものがある。

3月になると、次第に穏やかな天候に恵まれるようになる。今回は自然の安らぎや、穏やかな時間の流れを、濃墨と羊毛筆で重厚な線を描きつつ、温かみと柔らかさを表現した。

どうしても使い慣れた筆や、同じ濃さの墨を使いがちだが、新しい筆や異なる濃さの墨を試すことで、表現の幅が広がる。参考として、固い筆で引き締まった線で書いてみた。変化を取り入れることで、より豊かな表現が可能になる。

〈参考〉



漢字規定 秀級以下 【4月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

大平 邑峰 選書

坐言起行

邑峰書

坐言起行

坐言起行

よみ

(坐言起行)

書体 楷書

習い方解説 (6)

大平 邑峰

坐言起行

(坐言起行)

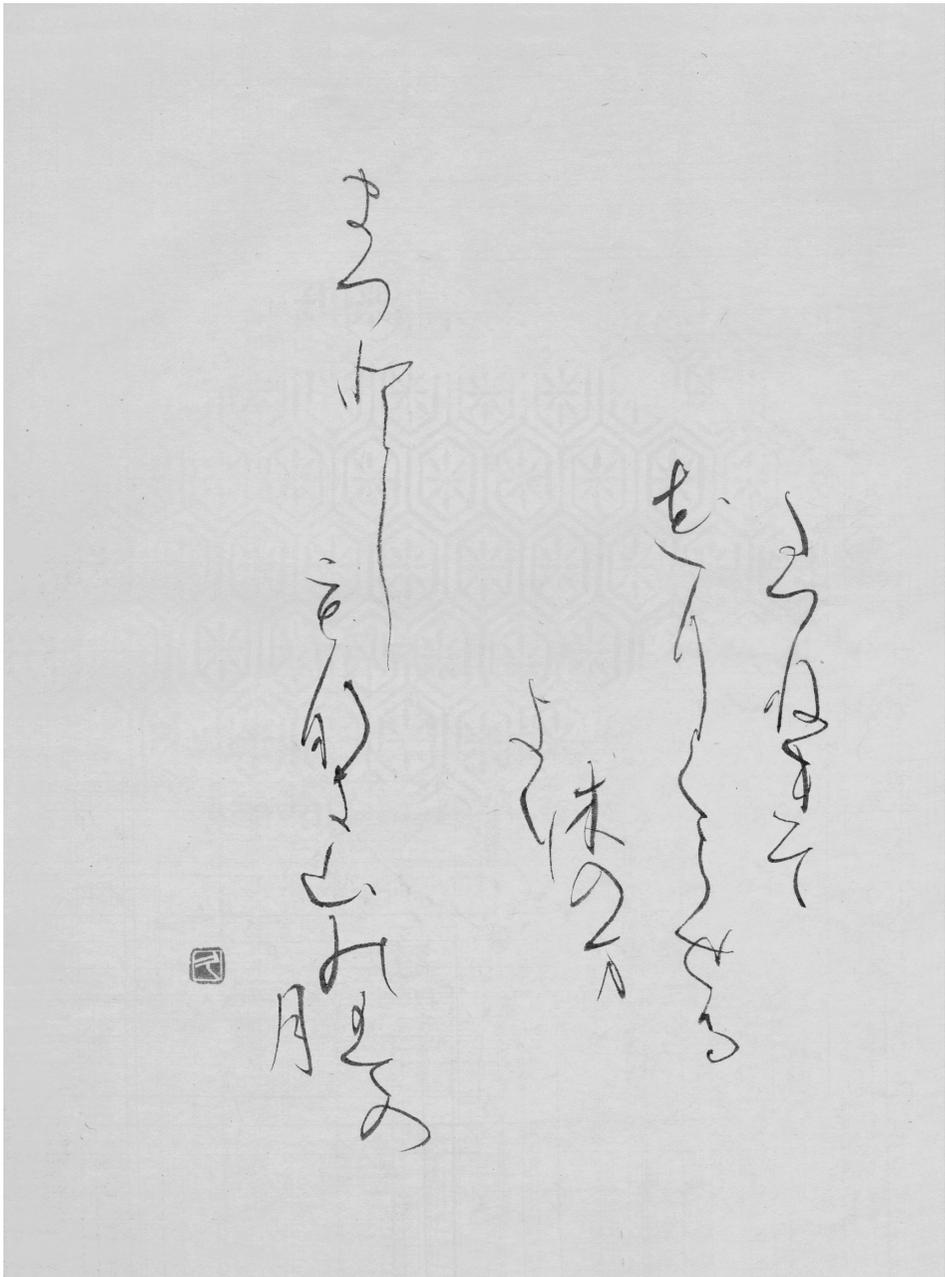
(荀子)

言ったことは必ず行う。

今月の課題は、北魏の造像記を参考に臨みました。龍門の石窟にも訪れたことがあり、古代社会の風潮と人民のパワーに圧倒されたものです。北方民族の特徴の表れた書とも言われていますが、そこには前時代の書の血も流れていて書道史の悠久性を感じます。

今月の書作は、前回の鄭道昭より強い筆致と瞬発性を加味して書いてみました。羊毛筆(中鋒)を使いましたが、兼・剛毛筆が書きやすいかもしれません。

「毎月参考にする古典を換えて学習する」ことは、あまりお薦めではないかもしれませんが、初心の方は一つの古典に、ある程度の時間をかけて接してほしいものです。



よみ方 た(多)づねきて花に(耳)く(久)らせる木の間に(万)より

待(ま)つと(登)しも(毛)な(那)き(支)山の(能)は(盤)の月

創作

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

習い方解説 (3)

松村 くに子

たづねきて花にくらせる木の間に
より待つとしもなき山のはの月

(藤原雅経「新古今集」)

花を見ようと山を訪れ一日中過ごしてしまった。すると待っていたわけでもないが木の間から山の端に月が昇って来たよ。

今月は、短い行を多用しました。右側の4行を一つの塊とし、それを受けて紙面左側には、少し変化を出すため、行を揺らしながらも1行に見えるよう表現しました。面と線の対比ですが、面白く共存できたらと思います。1、2行目を長い連綿線で書きましたが、だからだとならないうよう、特に文字の疎密には気配りが必要です。

「より」「月」の添え方ですが、少し位置を変えてみてはいかがでしょうか。少しの移動でも作品全体の表情はかなり変わってくるかと思えます。

墨継ぎは「毛」です。墨継ぎは盛り上がりを出したり、作品にメリハリをつけたりする効果があります。

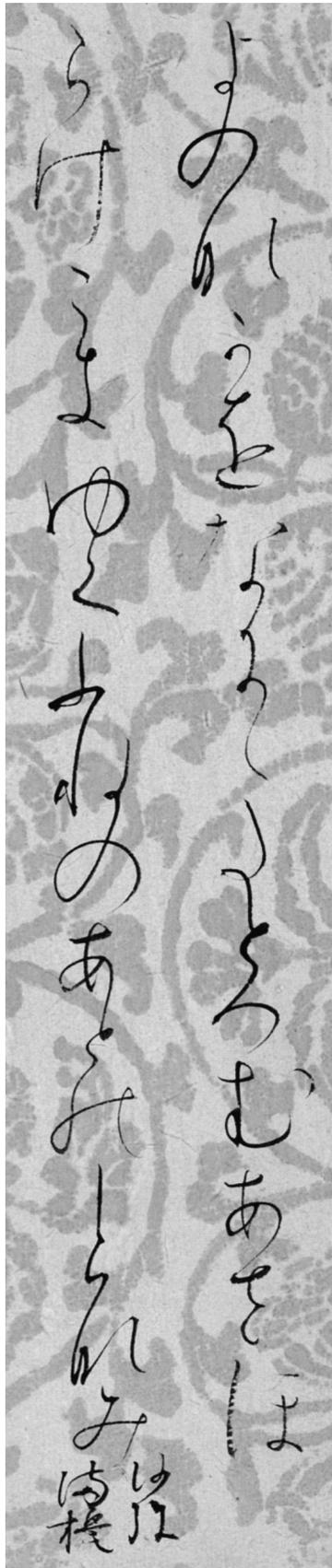
かな規定 秀級以下 【4月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

〔お知らせ〕 6月号より、かな規定・秀級以下の課題を「高野切第一種」に変更致します。

掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。

粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

※2行目下の「沙弥満誓」は書かなくてよい。



よみ方 那可よのな 尔多かをな 能に 那たとへ 那むあさ 那さぼ
らけこぎ 那ゆくふねのあと 那のしら 那なみ

歌意 無常のこの世を何にたとえましょうか。それは明け方に漕ぎ去ってゆく舟が残す白波のよ
うなもの。生まれた次の瞬間には消えてしまっているのです。

かな条幅規定 【4月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

勝山初美選書

習い方解説 (3)



よみ方 咲き(支)みち(運)て(豆)庭盛(毛)り上る桜(佐久ら)草

創作

勝山初美
咲きみちて庭盛り上る桜草
(山口青邨)

桜草が一齐に咲き誇り、華やかな庭が盛り上ったように見える様子
子を詠んだ句です。
今回は漢字の配置と流れを考慮
しました。字数の少ない句は構成
も単調になりがちです。横に張る
線・縦に伸びる線に留意し、気脈
が途切れないよう気をつけましょ
う。墨継ぎは「上」です。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【4月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

稲垣小燕 選書

寒松一色千年別墅
老拈花萬國春

寒松一色千年別 野老拈花萬國春 (臨濟録)

(寒松一色千年別なり 野老花を拈ず万国の春)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【4月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

田村鄭雲 選書

四海生春風

四海生春風 (禅語)

(四海春風を生ず)

書体||自由

習い方解説 (3)

稲垣小燕

「霜雪に耐えぬきその千年の翠をいよいよ輝かせている老松のみごとな姿、そして、その下では村の翁が花を楽しんでいる」というのどかな春の情景。

明るく伸びやかにと行草混じりで連綿を取り入れて表現し、柔らかさを出すために筆は羊毛を用い、墨は濃墨を使用。

*タテ形式に限る

習い方解説 (3)

田村鄭雲

暖かな春の季節にふさわしい言葉を選びました。

俗世を離れ仙人になった気持ちで、鄭道昭の力強く雄大な動きを参考におおらかに創作しました。

鄭道昭は山東省の山々に多くの書を残しています。その書は一碑一面貌で言葉の意味や岩肌の違い、自然の風景により異なっています。

四海に吹く春風を思い浮かべ自由で書作してください。

やなせたかし著「やさしいライオン」は、
 みな「ゴライオン」の赤ちゃんブルブルと
 お母さんがわりの、犬ムクムクのお話です。
 表情がやさしいなあと読み聞かせてい
 ると終わり5ページで急展開。舟錦書

書体＝自由

- ◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
- ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

【注意】

習い方解説 (3)

川島舟錦

絵本「やさしいライオン」は、何度見ても涙があふれます。「チリンのすず」「さよならジャンボ」「キラキラ」「アンパンマンと○○○○」など、どの絵本も、根底にあるのは「逆転しない正義」「やさしさ」「思いやり」です。絵はシンプルで、文字も最小限。行間を感じながら読む絵本ではないでしょうか。

サインペンは少々滲んでしまいます。ボールペンは、筆をよく手にする我々は、固いと感じませんか。外国製の万年筆は、横文字用にできていて、柔らかすぎるのが難点です。小筆とボールペンの中間に位置する日本製万年筆の弾力を利かせて、50枚以上を目安に練習を重ねてみましょう。

やなせたかし著「やさしいライオン」は、
 みなし「ゴライオン」の赤ちゃんブルブルと
 お母さんがわりの犬ムクムクのお話です。
 表情がやさしいなあと読み聞かせてい
 ると終わり5ページで急展開。○○書

先日は突然お伺い致しましたうえ
お酒までご馳走になりありがとうございました
ございました

久しぶりに学生時代に戻った気分
で楽しい時間が過ぎていきまいた
帰りにはお土産までいただきました
厚く御礼申し上げます

広瀬舟雲

(掲載手本80%に縮小)

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の氏名(号)を
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る

先日は突然お伺い致しましたうえ／お酒までご馳走になりありがとうございました／
久しぶりに学生時代に戻った気分／で楽しい時間が過ぎていきました／帰りにはお土産までいただきました／厚く御礼申し上げます／氏名

書体||自由

漢字部 師範 安藤 叙孝

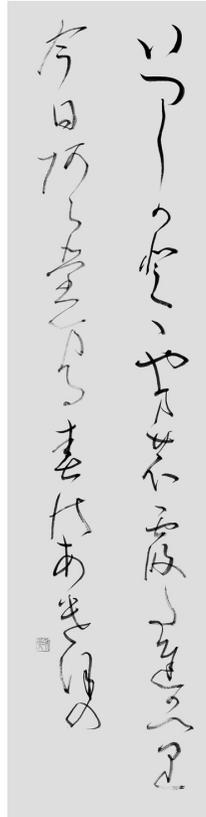
骨力を秘めた直、曲の線を巧みに調和させ、悠然と遊舞する。落款に至るまで隙のない見事な作。
◎漢字部総評 表現領域の広いはずの行草だが案外パターン化されていた。隷書作は取り組み方の安易さが感じられた。(石雲評)



かな条幅部 五段 村上 和美

手本をよく理解して、リズムにのりながら丁寧にとめた。墨継ぎの墨量が少々少なく残念でした。

◎かな条幅部総評 2行目がかなり右行に寄り過ぎた作品が多かった。後半で少しだけ寄る方が自然。墨の濃度にも注意したい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 田中 翠恵

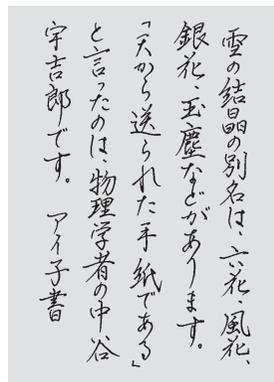
筆法が巧妙で、細やかな部分まで神経が行き届き、渴筆が上質で線に響きがある。字形、余白も綺麗。

◎漢字条幅部総評 下級は迫力ある行書、上級は行草書作品に優品が多かったが、篆隷楷書作品にも独自の優品が見られた。(萬城評)



ペン字部 師範 藤原アイ子

ペンの筆圧で立体感とリズム感を見事に表現。聡明で躍動感あふれた、心に響く作品です。
◎ペン字部総評 天地左右の余白で特に行頭の余白が足りないのと、作品全体が引き締まらないので留意しましょう。(孝子評)



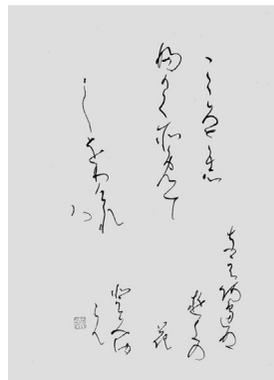
現代詩文書部 特選 白井 真理

風花と時計台に託して自然の美しさや人生の儂さの情景が目に見える、行間が響き合っている作。かび、行間が響き合っている作。かび、行間が響き合っている作。かび、行間が響き合っている作。
◎現代詩文書部総評 素材を生かし墨色構成を考え楽しんで書いて下さい。(掃雪評)



かな部 師範 小峰美加子

上部の行の長さで行間の広さの工夫が下部の構成と美しく響き合っている質の高い作品に仕上がった。
◎かな部総評 潤渴のリズムが美しく魅力ある作が多かった。盈は字典で確認してほしい。尚、恵は急でえてではないです。(峰子評)



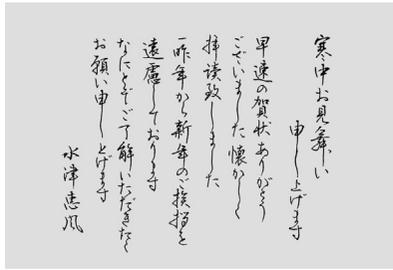
前衛書部 特選 吉田 恵弦

牙え渡る黒色美と底から沸き上がる淡墨美・余白美の融合である。迫力と雄大さに魅力を感じた。
◎前衛書部総評 想いと表現力の一致は難関だが、作品は着実に進化していることを感じた。(蓮紅評)

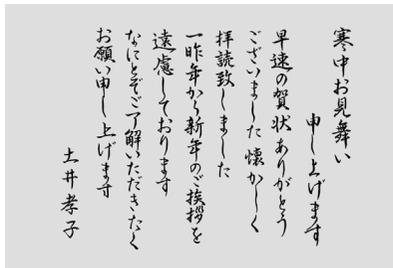


選評 下谷 洋子

◎**実用書部総評**
 連綿を多く用いる時は、にじみの出ない紙がよい。文字の大小や太細には統一感がないと落ち着かない。行の中心も意識しましょう。

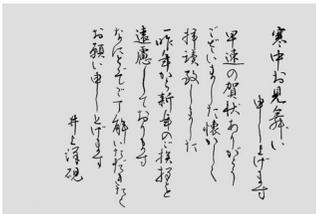


特選 水津 恵風
 全体のバランスが美しい。筆先が利き、かな的リズムが心地よい。



特選 土井 孝子
 筆致強く自然体で滑らかに流れる。漢字・かなもよく調和している。

(洋子評)



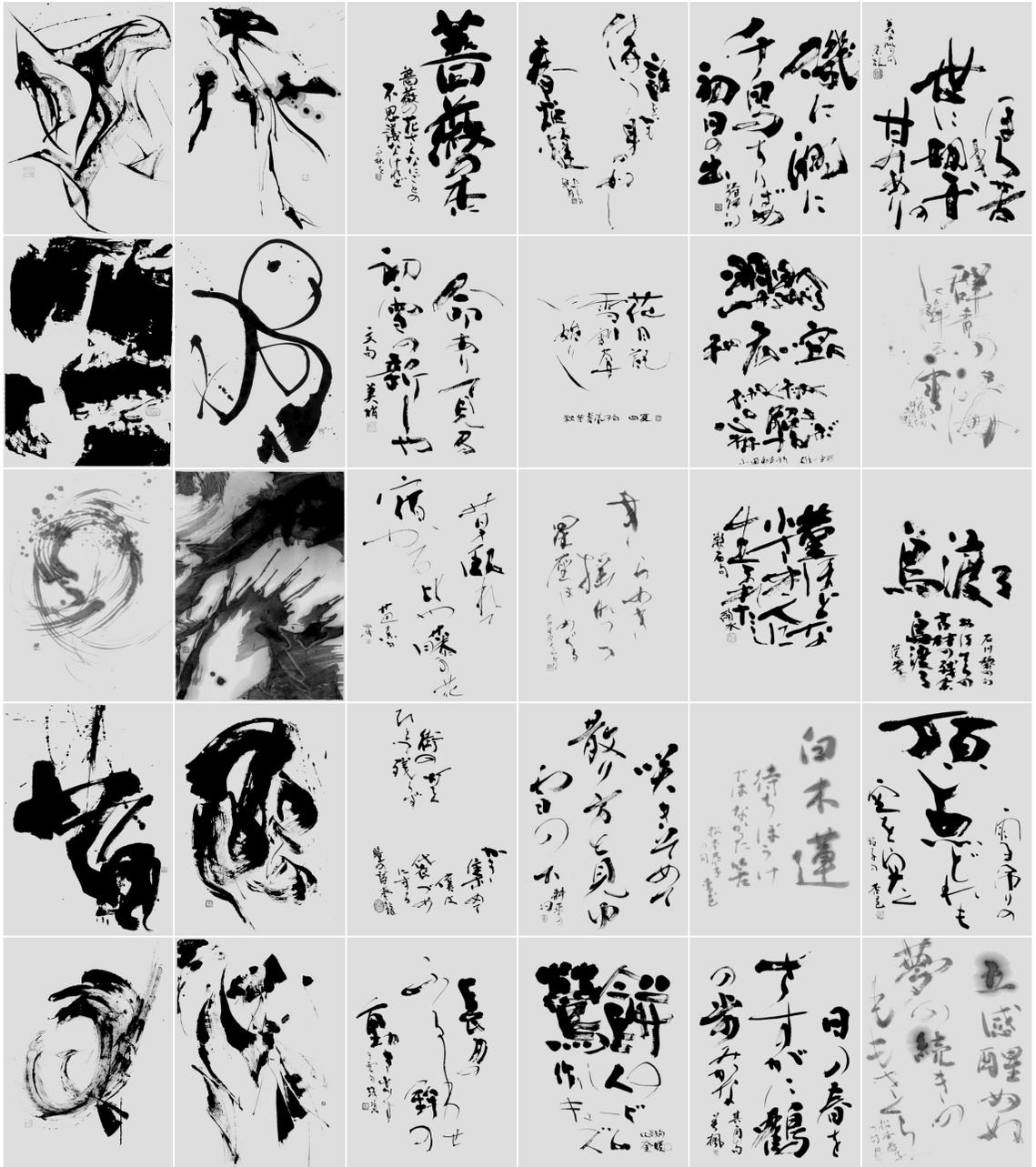
今月の注目作
井上 硯

水荃	書景	多賀	玉川	文筆	生大	佳	華仙	あか	宗苑	もく	耕雲	千葉	秀敵	大雲	華祥	幸願	佑朋	たか	吉岡	常盤	特選
清水	佐藤	齋藤	神田	片柳	作(60書)	柳瀬	本吉	茂木	西川	外山	竹浪	陳野	鷺山	坂本	小泉	井上	中原	安藤	猿渡	水津	惠風
蘭舟	佐崎	松苑	加奈子	珠江	良子	瑠華	明香	文恵	藤象	叙舟	美相	美相	素朴	洋硯	洋硯	純子	叙孝	筆右	宗惠	惠風	
書景	秀水	一新	紅瑤	樹原	五月	大雲	土氣	たか	耕雲	芳蘭	もく	八街	紅瑤	藍澤	入選(60書)	澄春	紅瑤	紅瑤	有秋	墨祥	書游
佐藤	佐藤	坂井	金井	葛小	奥村	白井	浮須	岩上	伊藤	板倉	新井	藍澤	藍澤	本郷	深澤	林野	浜野	武田	高木	庄司	
華園	初江	萌佳	翠陽	恵美	裕美	綾乃	康彰	和子	丹美	藤雪	白瑤	白瑤	白瑤	谷恵	佳月	幹子	永窪	花源	宗華	咏艸	
楓会	竹美	幸福	華仙	八街	上里	春汀	黎明	常盤	若美	紅瑤	秀韻	土氣	蒼田	〃	〃	立精	四枝	耕雲	若美	竹原	
吉田	横山	山口	村上	宮前	宮前	三浦	松山	藤本	久田	原島	林美	野村	根本	中野	中島	土橋	丹田	千本	鈴木	代田	
裕	蘭舟	雪翠	梅香	清美	清美	小樹	峰生	尚香	文子	春汀	洋子	奈々	雅子	美子	律山	白香	和美	香和	美子	葉子	

(選外346名氏名略)

前衛書部 (特選)

現代詩文書部 (特選)



佳米琴四友
楓杏翠夏香
 動筆淡氣
 線勢墨迫
 線の強と細
 の遠近、表
 情が豊かに
 流れる線見
 事

選評 太田 蓮 紅

珠葵四美玉
葉龍峰梢泉
 文字構輕無
 表成妙理の
 情句な不
 豊意細筆
 か味線運
 長マ事見
 月マ事見
 長マ事見

美李絢雄美
楓花水一悠
 安穩黒漢練
 定やかな字
 した情と平
 運筆が趣が
 見事ある作
 である作
 力な作

選評 山崎 掃 雪

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 北村白琉 田村鄭雲

小品の部

現代詩文書

(伊呂)

齋藤久子 「福田夢汀の句」



齋藤久子書

135×35cm

◆縦作品の流れを作りながら伸びやかな横画の動きが幅の広さを生む。墨量も充分に含ませた細く厳しい線が作品の深さを増した。作者の熟練の高さが響く。(鄭雲評)

部分拡大



総出品点数
79点

〈小品の部〉
創作の部(42点)
漢字 1 9点
かな 1 2点
現代 1 22点
篆刻 1 1点
前衛 1 8点
臨書の部(37点)
漢字 1 33点
かな 1 4点

〈特選候補者〉

〈創作の部〉

青蓮 大町 菜園

創珠 阿部 珠翠

「かな」

伊呂 齋藤 杏邑

「現代詩」

現花 坂本 蓉花

千桜 金子 美千

炎佳 伊藤 紫炎

玄穹 千葉 陽子

青蓮 沼田 奎心

植松 梅田 紅雨

「前衛」

華芳 庄司 紫千

「漢字の部」

大雲 江本 興舟

堂光 佐藤 光耀

千葉 石川 晴洞

書游 佐藤 華園

澄春 新行内 芳蘭

たか 浜野 永堂

泰香 小木曾 泰香

八街 十河 春景

紅瑤 原島 春汀

臨書 (千葉)

安藤叙孝

「蘇慈墓誌銘」



136×35cm

安藤叙孝臨

◆やや細目であったが、原本の字形と線質を着実に促して臨書している。神経の集中力を長時間持続させた臨書態度に敬服。技量の高さが窺える。(萬城評)

(萬城評)

臨書

(宗苑)

茂木絢水 「曼殊院本古今集」



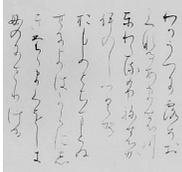
茂木絢水臨

135×35cm

◆古筆の原寸臨書は、書く古筆によって紙質が各々異なるため、それを理解して書くことが大切。曼殊院本の消え入るような細線を命毛で巧みに表した。(洋子評)

(洋子評)

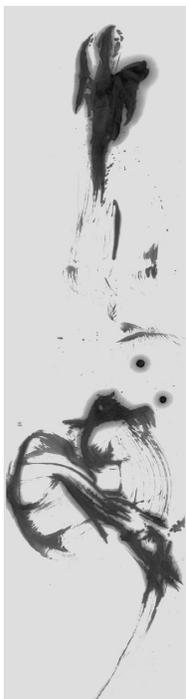
部分拡大



前衛書 (秀水)

坂井初江

「華」



坂井初江書

135×35cm

◆上部の深い墨色の締まった造形と下部の軽やかに大きく回転する造形の対比の妙。中間に散らばる少し弱く見える線が惜しまれる。(白琉評)

(白琉評)

前衛書 (月華) 中塩朱華「旋律」

大作の部

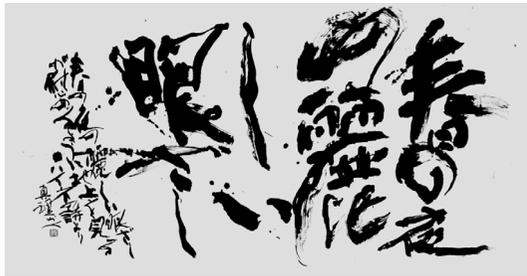


中塩朱華書

60×180cm

◆濃墨による横広のダイナミックな構成。躍動感あふれる豪快な線が魅力的。下半分の大きな余白が効いている。
(白琉評)

現代詩文書 (宗苑) 白井真理
「春の夜の麗しい眼ざし」



白井真理書

70×135cm

◆疎密の差、余白の変化により作品に大きなうねりを生む。筆線の末端も慎重に処理され、雄大なスケールが伝わる快作。
(鄭雲評)

部分拡大



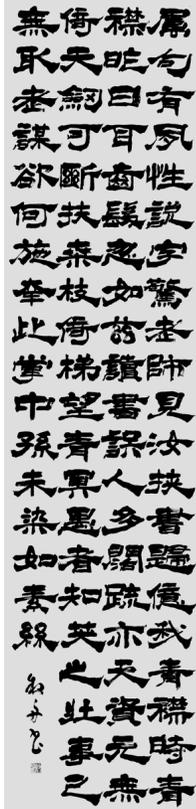
◆一点一画を丹念に臨書し、字形、線質ともに原本の表情をよく捉えている。何よりも集中力の継続に敬意を表する。見事な作品です。
(萬城評)

相澤敦子臨

臨書 (紅瑤) 相澤敦子
「蘇慈墓誌銘」



146×46cm



竹浪叙舟書

240×52cm

◆漢碑の結体に漢簡の筆勢が加わる。空間を空け行間を詰めた章法。安定感と躍動感があり、熟達した技量を礎にした完成度の高い創作です。
(萬城評)

漢字 (千蕪) 竹浪叙舟「示侄孫伯安」

〈大作の部〉

総出品点数
44点

〈特選候補者〉

〈創作の部〉

「漢字」

AI 清水由紀子

「かな」

奥田 小林 純風

玉松 田中 耶衣

奥田 生駒 久華

奥田 藤井 清華

「現代詩」

誠和 石崎 甘雨

大雲 柿沼 彩香

月華 相馬 朱郷

「前衛」

杏苑 松永 杏苑

大阪 湯原 希風

蓮紅 佐藤 紅西

容洲 阿部 邑里

紅瑤 廣田 紫

「漢字」

千葉 佐藤 桂香

大雲 舟實 恵美

もく 西川 藤家

東総 薄田 春緑

創作の部(35点)

漢字 3点

かな 9点

現代 11点

前衛 12点

臨書の部(9点)

漢字 9点

かな 0点

漢字研究部
(蘇慈墓誌銘)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品

大隋使持節大將軍工
兵二部尚書司農太府
卿太子左右衛率右庶
子洪吉江虔饒素撫七
州諸軍事洪州總管安

蘭舟書

清水蘭舟

漢字研究部 特選 清水蘭舟

細字の楷書を、よく見て感じて臨書できていること、鍛錬と精進を重ねておられることに感心いたしました。始筆、送筆、収筆の役目をきっちり果たし、小筆なのに縦画横画とも力強く潔く上品に仕上がりました。

◎漢字研究部総評

総的に「楷書体」を書きなれていないのかな。落款の巧みな方は、行書体・草書体に

重きを置いている、もしくは篆書体、隸書体なのかもしれません。

上位の皆さんとの差は、①用具用材の質、②練習の量。この2つにあると思います。

「筆」「用紙」が合うものを選ぶことで、書きやすくなります。筆脈気脈を意識し、多く書き込むことで、作品のリズムや緩急が生まれます。今できないだけ。(できるだけ) 毎日書けば上手くなります。

衛率右
庶子洪

大隋使持節大將軍
工兵二部尚書司農
太府卿太子左右衛
率右庶子洪吉江虔
饒素撫七州諸軍事

江虔
饒素

大隋使持節大將軍
工兵二部尚書司農
太府卿太子左右衛
率右庶子洪吉江虔
饒素撫七州諸軍事

太府卿太子左
右衛率右庶子
洪吉江虔饒素
撫七州諸軍事
洪州總管

諸軍事
洪州總

雅邦 友香 泰香 敦香 良子 香子 香子 香子

兵二部
尚書司

大隋使持節大將軍
工兵二部
尚書司農太府
卿太子

大隋使持節大將軍工
兵二部尚書司農太府
卿太子左右衛率右庶
子洪吉江虔饒素撫七
州諸軍事洪州總管安

司農太
府卿

洪州總
管安

太府卿太子左
右衛率右庶子
洪吉江虔饒素
撫七州諸軍事
洪州總管

翠芳 真優 天翔 麗流 史音 谷惠

卿太子
左右衛

太府卿太子左
右衛率右庶子
洪吉江虔饒素
撫七州諸軍事
洪州總管

大隋使
持節大

尚書司
農太府

諸軍事
洪州總

節大
將軍

綾春 紫雨 紅悠 美舟 桂子 恭子

將軍工
兵二部

司農太
府卿

尚書司
農太府

尚書司農太
府卿太子左
右衛率右庶
子洪吉江

尚書司
農太府

大隋使
持節

政霞 淳子 哲子 侑子 峰雪

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字31点・かな13点)

選評 小竹石雲・平川峰子
漢字秀逸作



竹浪 叙舟



江本 興舟

〈次点・50音順〉



西川 藤象

無理、無駄のない動きから発する情熱は周囲の空気感を心地よく和ませてくれる。また確かな字形に、さりげない線の太細の工夫が生彩感を際立たせる。
(石雲評)

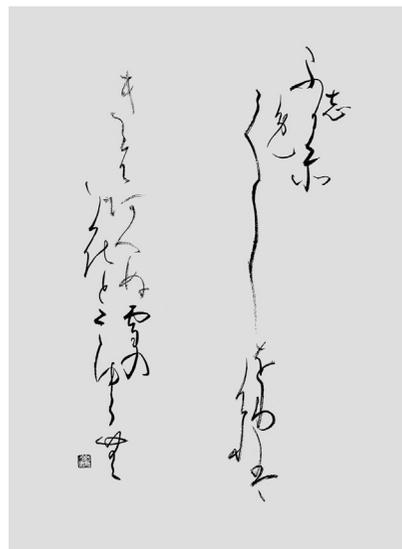


茂木 絢水



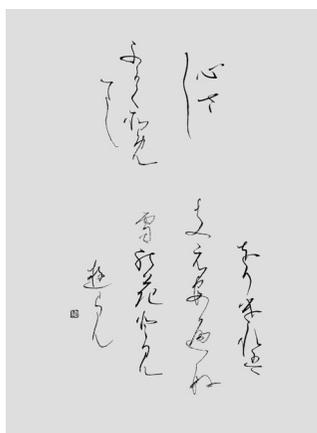
大内 熒軒

かな秀逸作

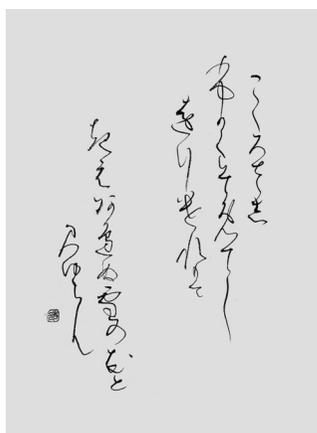


佐藤 一義

思いきった構成とデザイン化した余白の取り方、文字の大小の変化、2行を1行に見せる工夫、強い線条は作品を立体的に大きく見せ魅力ある作です。
(峰子評)



茂木 絢水



齋藤 杏邑

*日時：令和8年3月10日(火)～3月15日(日)
(10時～17時、15日は15時30分迄)

*会場：岡山県天神山文化プラザ 第二展示室大室
岡山市北区天神町8-54 電話086-226-5005

第38回 岡山県 現代俳句の書展

地元俳人協会の俳句と書のコラボ展に、臨書を加えて開催いたします。

3月15日(日)には、会場にて下記の会員による席上揮毫を行います。

●11時～ 桐山 由華 ●13時～ 小竹 石雲
原田 皇麗 貫名 桂峰

何卒ご高覧賜りますよう ご案内申し上げます。
ご芳志は謹んでご辞退申し上げます。

主催 岡山県近代詩文書道連盟
協賛 岡山県俳人協会



私たちは日本の書道文化の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

前回の37回展から3年ぶりとなる
38回展ではテーマを「花」として
春の浜寺の地で開催致します。
砂本先生の雅号「杏花」にも「花」
があり会場が「花」に包まれるよう
にと楽しみながら書作しました。
ご高覧ご指導賜りますようご案内
申し上げます。

山崎掃雪

会期 2026年3月26日(木)～3月29日(日)
11時～17時(最終日は16時まで)

会場 浜寺公園駅
駅舎ステーションギャラリー

〈主催〉 関西書道協会

〈後援〉 毎日新聞社・(公財)書道芸術院

〈事務局〉 関西書道協会(山崎掃雪方)

〒662-0895 西宮市上ヶ原五番町3-8
TEL/FAX:0798-52-4477

第三十八回 関西書道協会展

2026年 毎日書道展新会員作家展

本年度から毎日書道展の会員に昇格する作家の展覧会です。
各部の持ち味を表現しました。ご来場いただきますようご案内申し上げます。

毎日新聞社・毎日書道会

会期

第1期 3月 9日(月)～3月14日(土) 第2期 3月16日(月)～3月21日(土)
第3期 3月23日(月)～3月28日(土) 第4期 3月30日(月)～4月 4日(土)

*日曜日休み 3/20(祝)開催

時間

午前10時～午後5時(但し、毎週土曜日は午後4時まで)

会場

アートサロン毎日 (入場無料)

第1期	第2期	第3期	第4期
〈漢字部〉			
青木 香子 赤川 優泉 明石 有平 阿達 香婉 池田 弥希 池辺 泛舟 石橋 苳羅 伊藤 香徑 小川 剛志	伊藤 粹苑 伊藤 青暁 今村 翔鳳 岡崎 菖苑 寒野 玲華 紺野 遊山 紺野 幸玉 島崎 翠風 寺谷 陽風	豊島 峰雲 中村 彩宴 中村 瑛華 西山 菁苑 西村 軒雨 橋本 杏華 松垣 青雨 堀井 惠子 山崎 皐月	武石 栄華 堀口 芳翠 水野 朋鶴 宮尾 華扇 山本 碧川 横田 千峰 吉澤 虹城 渡部 玉萌

〈かな部〉

安部 裕子 池田 紫洋 大崎 友里絵 岡部 美賀子 鍛治 田千洲	川下 あゆみ 河野 玲蘭 木村 関泉 比藤 眞喜子 築野 直子	富澤 萌未 長岡 真貴子 中澤 睦子 比留 間加林 藤田 明舟 渡邊 佳舟	星 志保子 松井 萌芳 松岡 緑風 松本 瑞芳 宮崎 薫心 森下 煌波
--	---	--	--

〈近代詩文書部〉

阿彦 應玖 石原 伸弥 漆原 彩羽 遠藤 美美子 谷川 春玲	大友 四峰 奥山 唯光 檀本 美浩 熊谷 美潤 桑野 香風 砂土 居秀藍	園田 一嶋 田中 葦舟 田中 浄笙 千葉 和彩 登坂 姚珂	袴田 泉粹 福原 美貴子 藤原 史崇 又村 蘭宝 丸若 翔白
--	---	---	--

〈大字書部〉

天野 和子 大床 蘭水 小倉 揮代	風岡 将平 丸藤 紫苑 衣田 琴草	清遠 瑞 下谷 友仙	西島 浩乃 備中 隆文 山下 喜久枝
-------------------------	-------------------------	---------------	--------------------------

〈篆刻部〉

	伊藤 由香	入江 遼太
--	-------	-------

〈刻字部〉

小川 先華	鷲尾 春玲
-------	-------

〈前衛書部〉

安藤 楊風	飯野 篁秋	井上 政行 加藤 ひとみ	中村 心泉 橋本 安希子
-------	-------	-----------------	-----------------

第18回 かながわ書道まつり

東日本大震災・能登半島地震及び自然災害からの復興応援チャリティイベント

～書が結ぶ支援の輪～

2026年3月19日(木)～22日(日)
11:00～20:00

ランドマークプラザ 1階・3階

横浜西区みなとみらい2-1

JR京浜東北線桜木町駅下車徒歩5分
みなとみらい線みなとみらい駅下車徒歩3分

【お問い合わせ】 ゴールデン文具『書道まつり』係
〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1 びおシティ3階
☎045-201-7118
<https://kngwshodomatsuri.web.fc2.com>



私たちは日本の書道文化の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。



You Tube web site

第10回 一般社団法人 小燕会書展
「今を生きる」

1996 1999 2002 2005 2008 2011 2014 2019 2023 2026 2029 2032 2035 2038

2026 3/25(水)～29(日) 10:00～17:00
(最終日は16:00まで)

奈良県立万葉文化館 リングの模様は人と人の交わりと共生をイメージしました

第59回
たままつ
玉松会書展

令和8年4月7日(火)～12日(日)
鳩居堂画廊

中央区銀座5-7-4 鳩居堂ビル3階・4階
午前11時～午後6時(最終日4時終了)

それぞれの思いのかな作品を制作致しました
ご高覧下さいますようご案内申し上げます
お気遣いなくお運び下さいませ

遺墨 永井幸子先生

小島孝予	小川栄子	鳥田昌子	寺原恵子	目良まゆみ
青木葵郷	木下千壽子	島本秀代	富里敬子	山口知子
池田信子	日下文子	清水環	永井則子	山崎琴
石井明子	工藤妙子	清水由紀子	橋本紅霞	山下薫
板倉見智子	剣持俊夫	庄司紅邨	平井智子	山田純子
上田明子	齋藤繁子	陳野原千鶴子	平川峰子	横山和子
植田幹子	佐々木薫子	助川さきみ	藤村昌子	藤坂典子
上野純子	佐藤希雲	関口芳枝	藤原三枝子	渡辺美奈
宇於崎裕美	権澤美紅	田崎和代	保坂礼奈	(50音順)
宇田川香奈	椎貝恭子	武内みどり	古川雅子	
生方由美子	塩澤美紅	田崎和代	見越雪枝	
遠藤紅芝	七條裕美	近見依未	峯岸けい子	
	篠田祐子	土屋佳代	宮崎美江子	

●後援 毎日新聞社 (一財)毎日書道会 (公財)書道芸術院 (公社)全日本書道連盟 かな書道作家協会
●主催 玉松会 事務局 〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町3-20-12 小島方 ☎090(3594)2031

Spectrum of sumi ink 墨のスペクトル—折りの造形—
千葉紅雪展

- 会期 令和8年3月28日(土)～
4月1日(水)
- 会場 せんだいメディアテーク 5F.C
〒980-0821
宮城県仙台市青葉区春日町2-1
TEL 022-713-3171
- 会期 令和8年4月3日(金)～
26日(日)
- 会場 道の駅硯上の里おがつ
〒986-1335
宮城県石巻市雄勝町下雄勝2-17
TEL 0225-25-6844
- 主催 玄穹社 千葉紅雪
- 後援 (一社)宮城県芸術協会・毎日書道会・河北新報社・石巻かほく・石巻日々新聞・(公財)書道芸術院

第十回 墨縁書展

2026 4/3(金)・4(土)・5(日)

10:00~17:00(最終日16:00終了)

八戸市美術館 ギャラリー1・2

〒031-0031 八戸市番町10-4 Tel 0178(45)8338



ご覧下さいませようご案内申し上げます。

主催/墨縁書道会 主宰/田中扇溪
〒031-0013 八戸市石手洗字上石手洗30-1 Tel 090(6457)1298
後援/八戸市 八戸市文化協会 (株)デーリー東北新聞社
(公財)書道芸術院 白扇書道会

※会場の規定により、生花などは持ち込めませんのでご了承下さい。

特別昇段級試験の漢文解説

◎漢字部第二種

曹操「步出夏門行」(ほしゅつかもん)

盈縮之期 不但在天

養怡之福 可得永年

(盈縮の期は但だ天のみに在らず 養怡の福は永年を得べし)

↓死をものともしない気概があれば、寿命の長さも運命も、天の定めによるとは限らない。心身の調和を図ることによって、永遠

の命を得る幸福も勝ち取ることができるのだ。

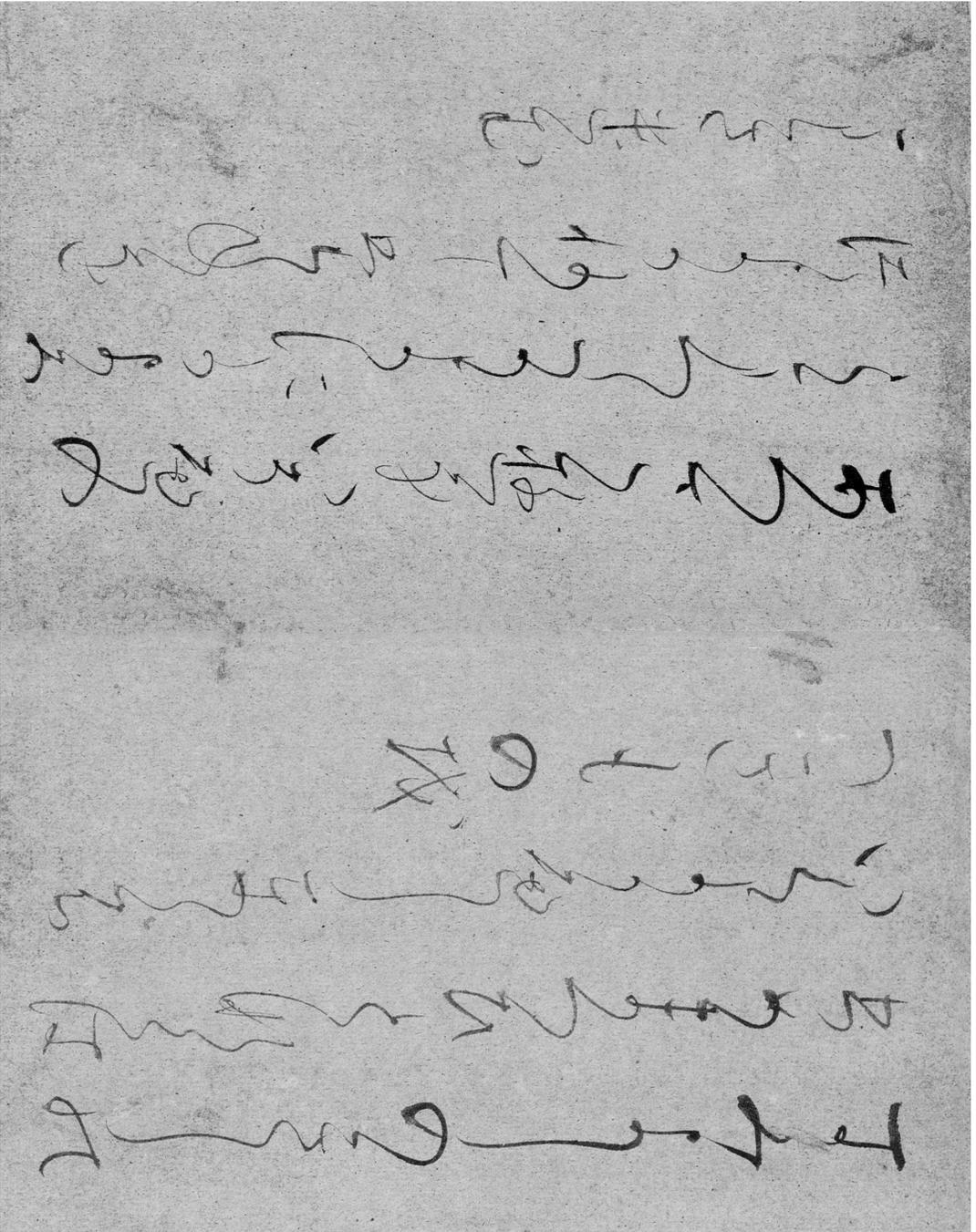
(解説)「步出夏門行」は楽府題。この詩は4章あり、その最終章の中の一節。作者は「三国志」の英雄の一人であり、魏の建国に向けて、戦乱の日々を生きた。その軍営で催された酒宴の場で、部下とともに好んで

い。心身の調和を図ることによって、永遠

その軍営で催された酒宴の場で、部下とともに好んで

(789号~791号)	(786号~788号)	(783号~785号)	(780号~782号)	(777号~779号)	号	〈予告〉令和8年度 臨書課題
1月号~3月号	10月号~12月号	7月号~9月号	4月号~6月号	1月号~3月号		
書譜	孔子廟堂碑	礼器碑	蘭亭序	蘇慈墓誌銘	古筆鑑賞	
十五番歌合	藍紙本万葉集	寛平御時后宮歌合	粘葉本和漢朗詠集	曼殊院本古今集		

☆19ページ「古筆鑑賞」の原寸図版（半紙はタテ長に使用せよ）



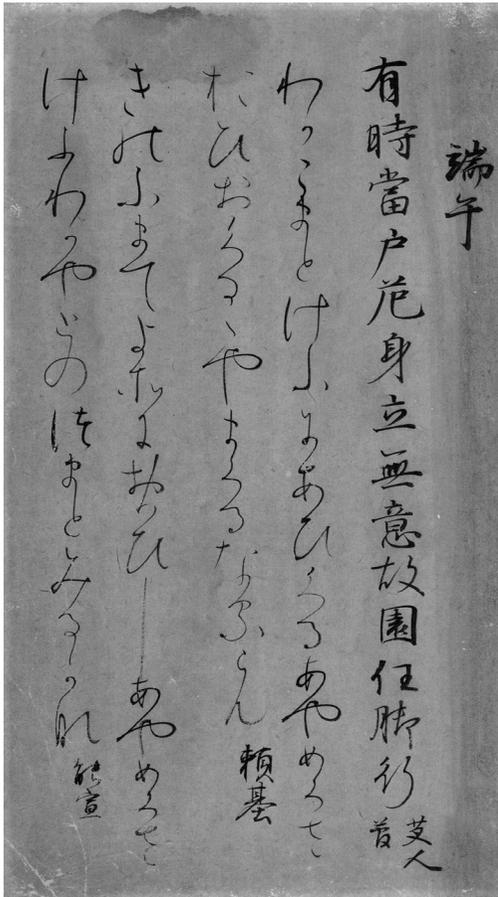
へよみくすみよしのきしのひめまつひとばらばらくよかほしとふくきものぞあつちゆみいそくの
 じまつたかよにかとろつよかほしてたねをまきけむ

古筆鑑賞 265

古典鑑賞 491

粘葉本和漢朗詠集 (伝 藤原行成筆) ①

蘭亭叙 (東晋 王羲之) ①



(掲載図版・60%に縮小)



永和九年。歲在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。羣賢畢至。少長咸集。此地

(掲載図版・70%に縮小)

〈よみ〉
端午
有時當戸危身立、無意故園任脚行。文人昔
わかごまとけふにあひくるあやめぐさ
おひおくるゝやまくるなるらむ頼基
きのふまでよそにおもひしあやめぐさ
けふわがやどのつまとみるかな能宣

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款(印のみも可)を入れる。

●出品資格 高校生以上

●月例競書作品出品の心得

- 1、締切日必着厳守
- 2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない
- 3、月別出品券のコピーは不可
- 4、(一)初めて出品のときは「10級」と書く
(二)「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、違反作品として氏名を掲載します。

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

*段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3...
段位は漢数字 初、二、三...
で書いてください。

*級位の方は、出品する月の本誌(最新号)で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、現在級を書き「未調査」と明記してください。

●規定部(自分の段・級で出品)

部門	段級位	用紙	書体・内容
字	初段以上	半紙	創(書体自由)作
漢	秀級以下	半紙	創作(楷書)
な	初段以上	半紙	創作
か	秀級以下	半紙	臨書
漢字条幅	初段以上	半切	創(書体自由)作
かな条幅	秀級以下	半切	創(書体自由)作
ペン字	10師級	はがきサイズ	書体自由

●かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部(掲載課題の臨書)

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

●掲載部分以外の箇所は不可。
●かな研究部門は料紙使用可。
●料紙貼りつけ可。

●自由部(段、級によらないもの)

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代詩書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

△実用書部門・出品規定▽

- 用紙 半紙横 24.5×16.5 cm、B5コピー用紙 26×18.1 cmも可。
- 課題 掲載語句を書く。
- 小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

- 大作または小品のどちらかに1点出品する。
- 詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査委員の部について

- 「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査委員のみが出品できる部を設ける。
- バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。
- 通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

ご連絡等は月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は送料免除

令和八年二月二十五日印刷
令和八年三月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 下谷洋子
発行人

データ処理 株式会社リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
振替00150141350058
http://www.hins.co.jp/shogei/